



海峽を つなぐ陶匠 400年の旅

李参平と沈当吉(沈壽官家初代)
をめぐって

[開館時間] 10:00 ~ 17:00

[観覧料] 無料 [休館日] 日曜休館

主催 = 駐日韓国大使館 韓国文化院

協力 = 沈壽官窯、陶祖李参平窯、日本民藝館

韓国文化院

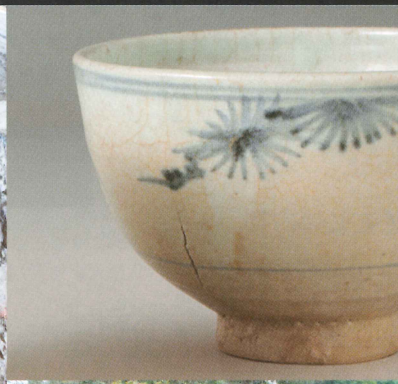
ギャラリー MI (1階)

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-10

Tel. 03-3357-5970

www.koreanculture.jp

2014.3.5(水) ▶ 3.22(土)



海峽をつなぐ陶匠

400年の旅

李参平と沈当吉(沈壽官家初代)をめぐって



染付秋草文壺
(朝鮮時代 18世紀前半)
日本民藝館

日本陶磁史の発展は、朝鮮陶工の力を抜きにしては語れません。16世紀末に起こった文禄・慶長の役(韓国では壬辰倭乱・丁酉再乱)の折りに、韓半島から日本に連れて来られた陶工たちの技の移植によって、日本の陶磁技術は飛躍的に前進しました。そして、西日本を中心に定住した朝鮮陶工たちは、萩焼(山口県)、上野焼(福岡県)、高取焼(福岡県)、有田焼(佐賀県)、武雄・唐津焼(佐賀県)、薩摩焼(鹿児島県)などを興していったのです。

中でも、日本陶磁史に大変革をもたらした有田焼の創始者といわれる陶匠李参平(日本名「金ヶ江三兵衛」)と、薩摩焼の雄として400年以上にわたり朝鮮陶工の血脈を守り続けてきた沈壽官家の初代にあたる陶匠沈当吉は、その代表的な存在です。

彼らは、父祖の地である韓国から持ってきた陶磁の種を母の地である日本に根付かせ、その子孫や仲間たちは幾多の苦難を乗り越えて、有田焼(伊万里焼)や薩摩焼を新しい日本の伝統文化として開花させました。そして、ついには海外でも高い評価を得るまでに発展させていったのです。

二つの祖国から命を授かった有田焼(伊万里焼)と薩摩焼。この展覧会では、パネルによる解説や資料によって、陶祖李参平と沈当吉ら先人たちの400年の歩みに焦点をあてながら、それぞれが生み出してきた陶磁器の魅力を紹介します。

◎記念催事

講演会シリーズ2014「韓日交流史」第3回

「海峽をつなぐ陶匠400年の旅 - 李参平と沈当吉(沈壽官家初代)をめぐって」

日時: 2014年3月12日(水) 開場 18:30 開演 19:00

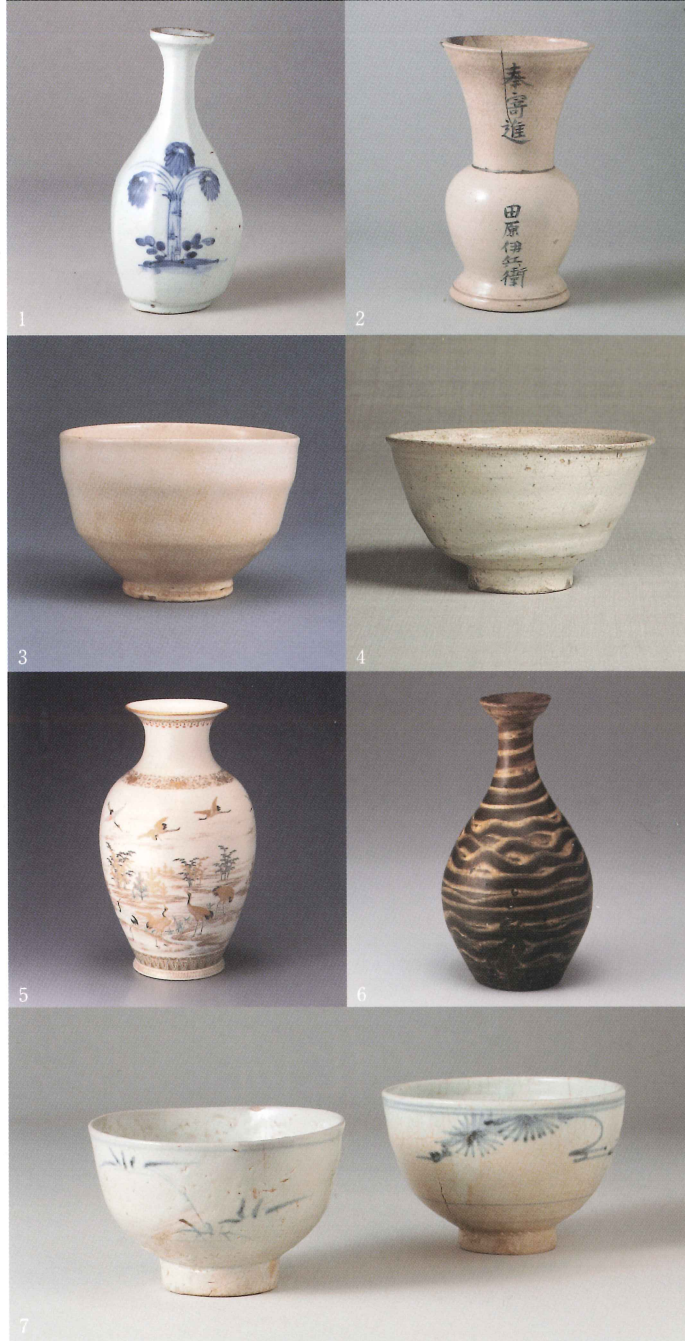
会場: 韓国文化院 ハンマダンホール(2階)

講師: 杉山享司(日本民藝館学芸部長)

定員: 300名(お申し込みはお一人様2名まで。締切りは2月末日)

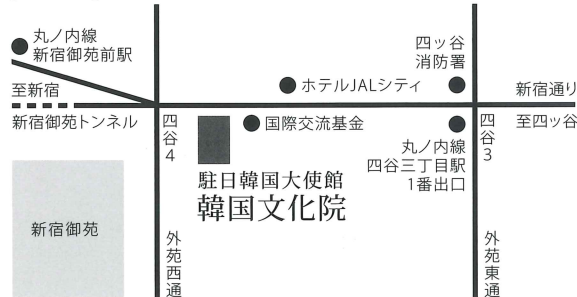
入場無料(事前のお申し込みが必要です。詳しくはHPの「お申し込み方法」をご覧ください)

主催・お問い合わせ: 駐日韓国大使館 韓国文化院 Tel.03-3357-5970



1. 染付花文面取瓶 (江戸時代 17世紀初期) 日本民藝館
2. 白薩摩花器 (江戸時代 1701年) 日本民藝館
3. 白薩摩茶碗 沈家伝来 (江戸時代 18世紀) 沈家伝世品収蔵庫
4. 白磁茶碗 (朝鮮時代 16世紀後半) 日本民藝館
5. 錦手松竹鶴図花瓶 (十二代 沈壽官 1880-1900年頃) 沈家伝世品収蔵庫
6. 褐釉白泥指頭文徳利 当壽墓副葬品
二代 沈当壽 (江戸時代 17世紀前半) 沈家伝世品収蔵庫
7. 染付碗 有田天狗谷古窯 (江戸時代 1610年代) 日本民藝館

[Access]



[交通] 丸ノ内線「四谷三丁目」駅1番出口より新宿方面徒歩3分
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-10